

特定非営利活動法人日本火山学会 2011 年秋季大会プログラム

期日：2011 年 10 月 2 日（日曜日）～ 4 日（火曜日）

場所：旭川市大雪クリスタルホール

〒 070-8003 北海道旭川市神楽 3 条 7 丁目

連絡先・責任者：2011 年度秋季大会実行委員会 和田恵治委員

〒 070-8621 北海道旭川市北門町 9

北海道教育大学旭川校

E-mail : kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

A 会場：大会議室 B 会場：レセプション室

ポスター会場：旭川市博物館特別展示室

懇親会：日時：10 月 3 日（月）18 時 00 分～ 20 時 00 分

大雪地ビール館（旭川市宮下通 11 丁目）

懇親会費：一般会員 5,500 円，学生会員 3,500 円

現地討論会：A. 十勝岳巡検（会期前；1 泊 2 日）

日程：9 月 30 日（金）～ 10 月 1 日（土）

B. 大雪山・白滝黒曜石巡検（会期後；1 泊 2 日）

日程：10 月 4 日（火）～ 10 月 5 日（水）

【口頭発表スケジュール】

		A 会場	B 会場
10 月 2 日 （日）	午前 (9:00-12:45)	ジオパークと火山防災 新燃岳 2011 年噴火	火山の岩石学 火山地質
	午後 (14:00-16:00)	新燃岳 2011 年噴火	火山地質
10 月 3 日 （月）	午前 (9:00-13:00)	新燃岳 2011 年噴火 南九州の火山	マグマの発生 火山電磁気
	午後 (14:00-15:30)	火山の構造と内部変動	マグマの供給系
	午後 (15:45-17:30)	臨時総会 学会賞・研究奨励賞記念講演会	
10 月 4 日 （火）	午前 (9:00-12:30)	火山の地殻変動・地震 巨大地震と火山	噴出物モニタリング 火山の流体振動

※一人あたりの講演時間は 15 分ですが，3 分は質疑応答時間として残すようにしてください。

※ A と B 両会場とも液晶プロジェクタ 1 台，スクリーン 1 面があります。OHP やスライドプロジェクタは用意できませんのでご注意ください

【ポスター発表スケジュール】

・ポスター掲示：10 月 2 日 9:00 ～ 4 日 12:00

コアタイム：10 月 2 日（奇数番号）16:00 ～ 17:00，

（偶数番号）17:00 ～ 18:00

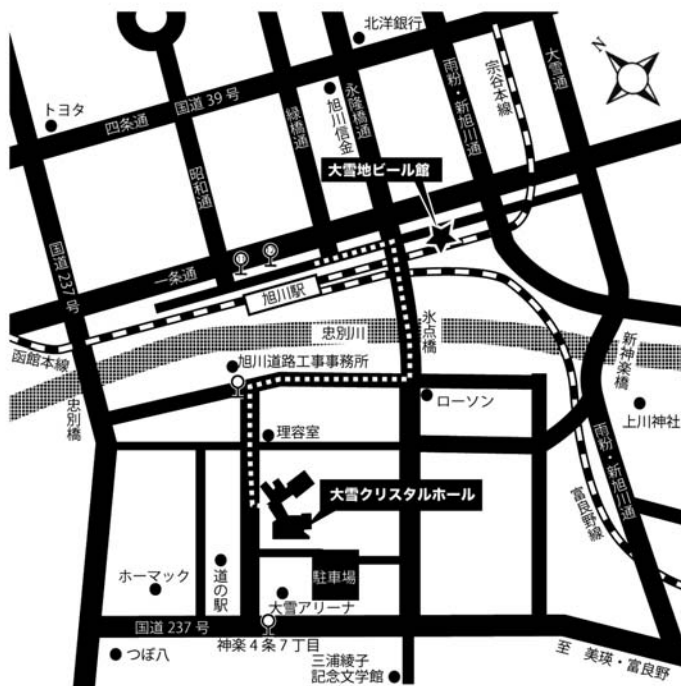
・パネルの大きさは縦 170cm × 横 110cm（ポスターの大きさは横約 90cm 以内）です。

・大会を共催する旭川市では火山学会終了後も引き続き火山の企画展を行います。ポスター発表者で，終了

後にポスターを展示物として旭川市に寄贈していただける方は、ポスターを撤去しないで残しておいて下さるようお願いします。

【そのほかの行事・会合】

- ・ 9月30日～10月1日 十勝岳 現地討論会
- ・ 10月1日 10:00-16:00 旭川市博物館・郷土学習室、中庭
火山学者と火山を作ろう！マグマのおもしろ実験教室 in 旭川
- ・ 10月1日 14:30-17:30 A会場 火山防災シンポジウム
- ・ 10月1日 18:00-21:00 大雪クリスタルホール第1会議室
日本火山学会 理事会
- ・ 10月2日 18:00-21:00 大雪クリスタルホール第1会議室
IAVCEI2013 実行委員会
- ・ 10月3日 15:45-16:30 A会場 日本火山学会 臨時総会
- ・ 10月3日 16:30-17:30 A会場 日本火山学会 学会賞・研究奨励賞 記念講演会
- ・ 10月3日 18:00-20:00 大雪地ビール館 懇親会（要予約）
- ・ 10月4日～5日 大雪山・白滝黒曜石 現地討論会



JR 旭川駅から会場（大雪クリスタルホール）まで

- ・ JR 旭川駅東口から氷点橋経由で約 1.5km、徒歩で約 20 分かかります。
氷点橋は 2011 年 4 月に開通したばかりの新しい橋です。
- ・ タクシーで 10 分以内（600 円～ 700 円）。
- ・ バス（いずれのバスも忠別橋を通過して南下します）。

■旭川駅 11 番バス停から道北バス（14, 43, 45 系統など）神楽方面行、神楽 4 条 7 丁目（大雪アリーナ前）で下車 5 分。

■旭川駅 11 番バス停から道北バス（444 系統）北町循環線、旭川道路事務所前で下車 5 分。

■旭川駅 12 番バス停から旭川電気軌道バス（80, 81 系統）医大病院前行、神楽 4 条 7 丁目（大雪アリーナ前）で下車 5 分。

A 会場

ジオパークと火山防災
座長：林信太郎・伊藤英之

- 9:00-9:15
A1-01 第12回 地震火山こどもサマースクール「磐梯山のお宝さがし」 ※佐藤 公・竹谷陽二郎・中川和之
第12回 地震火山こどもサマースクール実行委員会
- 9:15-9:30
A1-02 七輪を使った黒曜石発泡実験—黒曜石火山学習教室の実践— ※和田恵治・佐藤鋭一・佐野恭平
向井正幸
- 9:30-9:45
A1-03 コンデンスミルクとココアによるアア溶岩の実験教材 ※林信太郎
- 9:45-10:00
A1-04 島原半島ジオパークを活用した防災教育 ※寺井邦久
- 10:00-10:15
A1-05 iPhone を使った火山観測移動体コアシステムの開発 ※佐伯和人・実政光久
- 10:15-10:30
A1-06 火山活動鎮静化後の住民の火山活動に対する意識変化—岩手山を例にして— ※伊藤英之・吉田真也
藤村直樹
- 10:30-10:45
A1-07 伊豆東部火山群における「地震活動の予測情報」と「噴火警戒レベル」の導入について 上野忠良
齋藤 誠・宮岡一樹・※坂井孝行・舟崎 淳
小出 浩・土屋 智・小山真人・森田裕一
木下智章・八木宏晃・鈴木淑夫
- 10:45-11:00
A1-08 青ヶ島火山の噴火シナリオ ※津久井 雅志

11:00-11:15 休憩

新燃岳 2011 年噴火
座長：及川 純・宮城洋介

- 11:15-11:30
A1-09 2011 年 1 月以降の霧島山新燃岳の噴火活動について
気象庁火山課・福岡管区気象台・鹿児島地方気象台
※舟崎 淳
- 11:30-11:45
A1-10 新燃岳の噴火シナリオ (2) ※中田節也
- 11:45-12:00
A1-11 霧島山周辺における地震活動—2008 年噴火直前から

B 会場

火山の岩石学
座長：田村芳彦・奥村 聡

- 9:00-9:15
B1-01 マリアナ弧火山フロントに位置するパガン火山の未分化玄武岩マグマとその多様性 ※田村芳彦
石塚 治・Stern Robert・布川章子
宿野浩司・川畑 博・Embley Robert
Bloomer S.H.・Alex Nichols・巽 好幸
- 9:15-9:30
B1-02 西南北海道, 羊蹄火山と尻別岳火山の地球化学的特徴 ※梅津 茜・中川光弘・上澤真平
- 9:30-9:45
B1-03 大雪火山, 黒岳における 2 種類の苦鉄質包有物の形成過程 ※佐藤鋭一・和田恵治
- 9:45-10:00
B1-04 高原山産黒曜石類の地球化学 ※澁木俊希
福岡孝昭・布川嘉英・中村洋一
- 10:00-10:15
B1-05 微細組織観察から推定される白滝十勝石沢黒曜石溶岩の噴出過程 ※佐野恭平・和田恵治・佐藤鋭一
瀬戸雄介
- 10:15-10:30
B1-06 桜島火山大正溶岩にみられる集合斑晶の成因 ※西尾 光・高橋正樹・安井真也
- 10:30-10:45
B1-07 シート状岩脈群の結晶粒径変化による上部海洋地殻の温度構造の解明 ※奥川歩美・海野 進
- 10:45-11:00
B1-08 間隙圧オシレーション法を用いた高温高压下でのマグマの浸透率測定 ※奥村 聡・岡崎啓史
片山郁夫

11:00-11:15 休憩

火山地質
座長：宝田晋治・及川輝樹

- 11:15-11:30
B1-09 函館市内で掘削された温泉ボーリングに認められる軽石層 ※高橋 良
- 11:30-11:45
B1-10 西南北海道, 尻別火山起源の喜茂別火砕流と洞爺火砕流の偽層序関係 ※中川光弘・上澤真平
坪井宏太
- 11:45-12:00

2011年噴火活動活発化までの推移 ※及川 純 渡邊篤志・辻 浩・森田裕一・小山崇夫 大湊隆雄・武尾 実・中田節也・青木陽介 市原美恵	B1-11 恵山火山の小規模溶岩ドーム群と活動休止期間 ※三浦大助・土志田潔
12:00-12:15	12:00-12:15
A1-12 新燃岳周辺の広帯域地震・空振観測網の展開と噴火 推移の把握 ※武尾 実・及川 純・大湊隆雄 市原美恵・渡邊篤志・辻 浩・森 健彦 阿部英二	B1-12 火山性岩屑なだれの堆積構造と流動堆積機構 - 有珠, 雲仙, 浅間, 那須, ハヶ岳岩屑なだれ堆積物 - ※宝田晋治・Delcamp Audrey Melendez Christyanne・Bernard Benjamin Andrade Daniel
12:15-12:30	12:15-12:30
A1-13 霧島山新燃岳における斜め写真を用いた火口内溶岩 の体積推定 ※佐々木寿・磯部浩平・本間信一 阪上雅之・向山 栄・中田節也・小林哲夫 村上 亮	B1-13 1926年十勝岳, 大正泥流は融雪型火山泥流か? —堆 積物と熱水量の見積もりから考える大正泥流の発生 モデル— ※上澤真平・中川光弘・宮地直道
12:30-12:45	12:30-12:45
A1-14 ALOSによる2011年新燃岳噴火の観測 ※宮城洋介	B1-14 江戸時代における北海道の噴煙活動と噴火活動の関 係 ※及川輝樹

10月2日(日) 午後

A 会場

新燃岳 2011 年噴火

座長：金子隆之・小園誠史

14:00-14:15	A1-15 霧島山新燃岳火山ガス組成：無人飛行機と連続観測 装置による噴煙観測 ※篠原宏志
14:15-14:30	A1-16 霧島山新燃岳における火山噴煙のPIV解析 ※小園誠史・瀧本浩史・鶴川元雄・藤田英輔 實澤哲也・小屋口剛博・石峯康浩
14:30-14:45	A1-17 ゾンデによる霧島山新燃岳の噴煙観測 ※長井雅史 鶴川元雄・棚田俊收・新堀敏基・橋本明弘 鬼澤真也
14:45-15:00	A1-18 霧島山新燃岳火山におけるリアルタイム降灰観測網 の構築 ※古川竜太・及川輝樹・中野 俊 星住英夫・田中明子・世一秀雄・吉田智一 平藤雅之・野友 卓・小井戸清和
15:00-15:15	A1-19 霧島山新燃岳噴火に伴う火山灰輸送の数値実験(そ の2) ※橋本明弘・新堀敏基・福井敬一
15:15-15:30	A1-20 無人ヘリによる霧島新燃岳の観測：概要と火口近傍 域の空撮 ※金子隆之・大湊隆雄・小山崇夫 武尾 実・渡邊篤志・青木陽介・安田 敦 嶋野岳人・柳澤孝寿・本多嘉明
15:30-15:45	

B 会場

火山地質

座長：中村洋一・奥野 充

14:00-14:15	B1-15 恐山外輪山における屏風山—朝比奈岳火山群の年代 と火山活動史 ※小林 淳・水上啓治・岡島靖司
14:15-14:30	B1-16 十和田火山平安噴火におけるマグマ噴火—マグマ水 蒸気噴火推移と本質物質変化の関係 ※広井良美 宮本 毅
14:30-14:45	B1-17 男体今市層(Nt-I)および男体七本桜層(Nt-S)の 噴出年代 ※中村洋一・松居誠一郎・布川嘉英
14:45-15:00	B1-18 東北日本男鹿半島, 潮瀬ノ岬スコリア堆積物の堆積 過程 ※鹿野和彦・佐藤雄大
15:00-15:15	B1-19 古地磁気学的手法による成層火山を構成する火山角 礫岩の成因の解明浅間黒斑火山の例 ※小川貴好 高橋正樹・金丸龍夫・三浦 真・市川寛海 安井真也
15:15-15:30	B1-20 デイサイトマグマと流紋岩マグマが混合・噴出した 大規模火砕流堆積物中新世生火砕流堆積物に含ま れるデイサイト質本質岩片 ※佐藤隆春・古山勝彦 別所孝範・茅原芳正・山本俊哉
15:30-15:45	B1-21 米国, アリュースシャン列島, アダック島での完新世

A1-21 霧島新燃岳における無人ヘリによる地震・地殻変動
観測 ※大湊隆雄・金子隆之・小山崇夫・渡邊篤志
武尾 実・青木陽介・及川 純

15:45-16:00

A1-22 霧島新燃岳における無人ヘリによる空中磁気測量
※小山崇夫・金子隆之・大湊隆雄・渡邊篤志
武尾 実・柳澤孝寿・橋本武志・本多嘉明

テフラ ※奥野 充・和田恵治・Gualtieri Lyn
中村俊夫・Sarata Brenn・鳥井真之

10月3日(月) 午前

A 会場

新燃岳 2011 年噴火
座長：中尾 茂・相澤広記

9:00-9:15

A2-01 MT 連続観測による霧島硫黄山北の比抵抗変化
※相澤広記・小山崇夫・長谷英彰・上嶋 誠
橋本武志・宇津木充・吉村令慧・神田 径
小川康雄

9:15-9:30

A2-02 霧島火山群周辺の表層電気伝導度分布 ※鍵山恒臣
宇津木充・吉川 慎・大沢信二・井上寛之
小森省吾

9:30-9:45

A2-03 霧島山北西部の上下変動—えびの高原—えびの水準
測量成果(2011年2月—6月)— ※森 济
小山悦郎・大島弘光

9:45-10:00

A2-04 霧島火山地域における精密相対重力測定
※植木貞人・大久保修平・大島弘光・前川徳光
田中愛幸

10:00-10:15

A2-05 霧島新燃岳 2011 年 1 月 26 日噴火前後の地殻変動
※中尾 茂・森田裕一・後藤和彦・八木原寛
平野舟一郎・及川 純・上田英樹・小園誠史
平田安廣・高橋浩晃・一柳昌義・太田雄策
松島 健・井口正人

10:15-10:30

A2-06 新潟地震計アレイおよび広帯域地震計でみた火山性
微動 ※松本 聡・清水 洋・松島 健・植平賢司
山下裕亮・中元真美・宮崎真大・千藏ひろみ

10:30-10:45

A2-07 新燃岳の噴火に伴う傾斜変動 ※前原祐樹
大湊隆雄・及川 純・武尾 実

10:45-11:00 休憩

新燃岳 2011 年噴火と南九州の火山
座長：鈴木由希・小林哲夫

B 会場

マグマの発生
座長：海野 進・金子克哉

9:00-9:15

B2-01 シャツキー海台のマグマ組成と層序 ※佐野貴司
清水健二・石川 晃・仙田量子・常 青
木村純一

9:15-9:30

B2-02 北海道における 1.7Ma 以降の苦鉄質岩の組成空間変
化 ※小杉安由美・中川光弘

9:30-9:45

B2-03 Geochemical features of volcanic centers from the
Northern Kuril Islands, Russia ※Kuvikas Olga
Nakagawa Mitsuhiko・Avdeiko Gennady
Rashidov Vladimir

9:45-10:00

B2-04 伊豆小笠原弧明神リフトにおける玄武岩質および珪
長質火山活動の地球化学的特徴 ※原口 悟
倉田拓音・玉木賢策

10:00-10:15

B2-05 沈み込み帯形成初期の島弧火山活動：始新世母島火
山群の地質と岩石 ※海野 進・金山恭子
石塚 治

10:15-10:30

B2-06 停滞スラブのマントル遷移層における融解中国東
部、山東半島玄武岩からの制約 ※柵山徹也
Wei Tian・木村純一・深尾良夫・平原由香
高橋敏郎・仙田量子・常 青・宮崎 隆
巽 好幸

10:30-10:45

B2-07 マントルウェッジ流体の化学的特徴：塩濃度の重要
性 ※川本竜彦・三部賢治・小野重明・小木曾哲

10:45-11:00

B2-08 地殻溶融による珪長質および苦鉄質マグマの生成過
程一次元物理モデルによる量、組成、時間スケール
の検討 ※金子克哉

- 11:00-11:15
 A2-08 鉦物・メルト包有物分析から推定される霧島火山新燃岳 2011 年噴火のマグマ混合・脱ガス過程
 ※斎藤元治・下司信夫・篠原宏志
- 11:15-11:30
 A2-09 新燃岳 2011 年噴火直前の高温マグマ注入過程：磁鉄鉦に着目した解析
 ※東宮昭彦・斎藤元治
 下司信夫・宮城磯治
- 11:30-11:45
 A2-10 新燃岳 2011 年噴火噴出物から推定されるマグマ混合・混交過程
 ※星出隆志・寅丸敦志・宮本知治
 入山 宙・池端 慶
- 11:45-12:00
 A2-11 霧島火山新燃岳 2011 年噴火マグマ溜まりの収支
 ※宮城磯治・斎藤元治・下司信夫・東宮昭彦
 石塚 治
- 12:00-12:15
 A2-12 霧島山新燃岳 2011 年噴火噴出物の岩石学的特徴と時間変化
 ※鈴木由希・安田 敦・外西奈津美
 金子隆之・中田節也・平林順一
- 12:15-12:30
 A2-13 薩摩半島南部大野岳火山の活動時期について
 ※稲倉寛仁・成尾英仁・小林哲夫
- 12:30-12:45
 A2-14 鬼界カルデラ・アカホヤ噴火に伴う津波堆積物
 ※小林哲夫・成尾英仁・下司信夫・奥野 充
 中川正二郎
- 12:45-13:00
 A2-15 南麓での火山層序と全岩化学組成からみた開聞岳火山の形成史
 ※片平 要・奥野 充

11:00-11:15 休憩

火山電磁気
 座長：橋本武志・山谷祐介

- 11:15-11:30
 B2-09 火山体の電気伝導度構造を用いた揮発性物質フラックス推定の試み～阿蘇火山への適用
 ※小森省吾
 鍵山恒臣・Fairley Jelly・宇津木充
- 11:30-11:45
 B2-10 伊豆大島の地磁気全磁力における局所の変化
 ※田口陽介・三島稔明・増子徳道・山崎 明
- 11:45-12:00
 B2-11 三宅島における黒潮による地磁気全磁力変動
 ※笹岡雅宏・山崎 明
- 12:00-12:15
 B2-12 有珠山の空中磁気測量から推定される噴火後の冷却過程
 ※橋本武志・中塚 正・大熊茂雄・宇津木充
 小山崇夫・神田 径
- 12:15-12:30
 B2-13 MT 法探査によるフィリピン・タール火山の比抵抗構造
 ※山谷祐介・笹井洋一・竹内昭洋・茂木 透
 Paul Alanis・Juan Cordon Jr.・橋本武志
 長尾年恭
- 12:30-12:45
 B2-14 桜島浅部の水環境
 ※大島弘光・井口正人

10月3日(月) 午後

A 会場

火山の構造と内部変動
 座長：山岡耕春・松島 健

- 14:00-14:15
 A2-16 微動 H/V スペクトル比を用いた雲仙火山周辺の地盤構造の推定
 糸谷夏実・※松島 健
- 14:15-14:30
 A2-17 桜島火山 2009 年 4 月 9 日噴火前の地殻変動から推察されるマグマ移動
 ※巳波社馬・井口正人
 三ヶ田均・後藤忠徳・武川順一
- 14:30-14:45
 A2-18 アクロスによる桜島火山のマグマ移動検出に向けた能動的アプローチ
 ※宮町宏樹・井口正人
 山岡耕春・渡辺俊樹・八木原寛・為栗 健

B 会場

マグマ供給系
 座長：石塚 治・宮坂瑞穂

- 14:00-14:15
 B2-15 マグマ化学組成からみた 60ka 以降の桜島火山・始良カルデラ地域におけるマグマ供給系の時間変化
 ※高橋正樹・大塚 匡・迫 寿・川俣博史
 大槻 明・安井真也・金丸龍夫・小林哲夫
 石原和弘・味喜大介
- 14:15-14:30
 B2-16 伊豆大島側火口列のマグマシステムとその東伊豆沖単成火山群との関係
 ※石塚 治・下司信夫
 川辺禎久・荻津 達・辻野 匠・中野 俊
 荒井晃作・坂本 泉・Taylor Rex N.

三ヶ田均・竹中博士・清水 洋

14:45-15:00

A2-19 桜島における ACROSS 観測可能性の検討
※山岡耕春・渡辺俊樹・道下剛史・宮町宏樹
井口正人

15:00-15:15

A2-20 十勝岳火口周辺の地殻変動に伴う重力変化
※岡崎紀俊・廣瀬 亘・高橋 良・高橋浩晃
一柳昌義・本多 亮

15:15-15:30

A2-21 Preliminary result of gravity monitoring on Aso volcano
field, central Kyushu ※ Sofyan Yayan
Yoshikawa Shin・Nishijima Jun・Fukuda Yoichi
Kazama T・Daisuke Oka

14:30-14:45

B2-17 磐梯火山最初期噴出物におけるマグマ組成の時間変化
裏磐梯高原コアの化学分析結果 ※山元孝広

14:45-15:00

B2-18 岩手火山におけるマグマプロセスの変遷全岩化学・
同位体組成に基づく検討 ※伊藤順一・宮城磯治
Ngyuen Hoang

15:00-15:15

B2-19 北海道東部・屈斜路火山カルデラ形成噴火のマグマ
供給系の変遷 ※宮坂瑞穂・長谷川健・中川光弘
松本亜希子

15:15-15:30

B2-20 岩石学的特徴からみる、有珠火山山頂溶岩ドーム群
の形成順序 ※松本亜希子・中川光弘

臨時総会 (A 会場) 15:45-16:30

A 会場

日本火山学会研究奨励賞・学会賞 記念講演
座長：篠原宏志

16:30-16:45

S01 大規模数値シミュレーションに基づく噴煙ダイナミ
クスの解明
※鈴木 雄治郎 氏 (日本火山学会研究奨励賞
記念講演)

16:45-17:00

S02 InSAR を用いた火山変動検出と数値モデリングによ
るマグマ移動メカニズムの研究
※福島 洋 氏 (日本火山学会研究奨励賞
記念講演)

17:00-17:30

S03 サブダクションファクトリー
※巽 好幸 氏 (日本火山学会賞記念講演)

10月4日 (火) 午前

A 会場

火山の地殻変動・地震
座長：大倉敬宏・八木原寛

9:00-9:15

A3-01 草津白根火山で2011年5月27日に観測された火山
性微動を伴う地殻変動一傾斜変動から示唆される浅
部流体輸送過程一 ※寺田暁彦・青山 裕
野上健治・山脇輝夫・齋藤政城

9:15-9:30

A3-02 ひずみ記録による噴火・火道生成メカニズムの推定
※大久保慎人・寺石真弘・山崎健一・小松信太郎
加納靖之

9:30-9:45

A3-03 GPS 観測による阿蘇火山の地殻変動 ※大倉敬宏
及川 純

9:45-10:00

B 会場

噴出物モニタリング
座長：嶋野岳人・松島喜雄

9:00-9:15

B3-01 阿蘇中岳2011年3～5月の噴出物中のガラス質粒子
※下司信夫・篠原宏志・石塚吉浩・池辺伸一郎

9:15-9:30

B3-02 諏訪之瀬島火山2010年末～2011年春の活動につい
て ※嶋野岳人

9:30-9:45

B3-03 自動降灰量計によって捉えた桜島のブルカノ式噴火
※田島靖久・福田謙太郎・國友 優・高橋英一
下窪和洋・阿蘇修一・井口正人

9:45-10:00

B3-04 カメルーン火口湖のCO₂濃度測定を目指した水中音
速測定 ※実政光久・佐伯和人

A3-04 小笠原硫黄島の重力変化のモデル化と隆起・沈降メ
カニズム ※鵜川元雄・上田英樹・藤田英輔
野崎京三

10:00-10:15

A3-05 複成火山における寄生火山の形成 ※横山 泉
10:15-10:30

A3-06 海底地震観測による桜島火山周辺海域の微小地震活
動 ※八木原寛・平野舟一郎・宮町宏樹・高山鉄朗
市川信夫・為栗 健・井口正人

10:30-10:45

A3-07 雌阿寒岳の浅部群発地震活動に先行した深部収縮と
低周波地震活動 ※高橋浩晃・山口照寛・柴田智郎
岡崎紀俊・宮村淳一

10:45-11:00 休憩

巨大地震と火山

座長：山本 希・福島 洋

11:00-11:15

A3-08 東北地方太平洋沖地震によって誘発された阿蘇山微
動の活動変化 ※山本 希・大倉敬宏・金嶋 聡
川勝 均

11:15-11:30

A3-09 有限要素法による地震・火山噴火連動性評価：
2011/3/15 静岡県東部地震の富士山への影響
※藤田英輔・河野裕希・小園誠史・上田英樹
吉岡祥一・戸田則雄・菊池愛子・井田喜明

11:30-11:45

A3-10 2011年東北地方太平洋沖地震に誘発された東北日本
弧火山の地殻変動 ※福島 洋・高田陽一郎

11:45-12:00

A3-11 火山周辺で検出された2011年東北地方太平洋沖地震
に伴う局所的な地殻変動 ※小澤 拓・藤田英輔

12:00-12:15

A3-12 ALOS（だいち）PALSARによる東北地方太平洋沖
地震の地盤変動解析 - 山体崩壊の前兆把握への応用
の検討 - ※村上 亮・奥山 哲・古屋正人
阿部隆博

12:15-12:30

A3-13 地震と火山の相互作用について ※趙 大鵬
植木真人

10:00-10:15

B3-05 薩摩硫黄島硫黄岳の脱ガス深度と火道の浸透率の推
定 ※松島喜雄

10:15-10:30

B3-06 草津白根山の火山活動と万座温泉の熱水系
※木川田喜一

10:30-10:45 休憩

火山の流体振動

座長：中道治久・市原美恵

10:45-11:00

B3-07 1997年秋田焼山火山（澄川温泉）の水蒸気爆発のメ
カニズム ※浜口博之・植木真人

11:00-11:15

B3-08 桜島昭和火口における爆発に伴う減圧過程に関する
研究 ※井口正人・西村太志

11:15-11:30

B3-09 諏訪之瀬島火山で発生する爆発地震と微動のアレ
イ解析 ※中道治久・青山 裕・西村太志・八木原寛
太田雄策・横尾亮彦・井口正人

11:30-11:45

B3-10 地震と空振に見られる調和型微動の発生に関するモ
デル実験 ※市原美恵・ライオンズ ジョン

11:45-12:00

B3-11 実験間欠泉における噴出様式と噴出量の数理モデル
※寅丸敦志・前田一樹

ポスターセッション

ポスター掲示：10月2日 9:00～4日 12:00

コアタイム：10月2日 奇数番号 16:00～17:00 偶数番号 17:00～18:00

P01	霧島火山群・新燃岳享保噴火（1716-1717年噴火）のマグマシステム ※宮本 毅		による阿蘇中岳第一火口付近の輝度温度等の観測 ※實測哲也
P02	新燃岳-享保噴火における被災状況について ※筒井正明・小林哲夫	P17	gPhoneによる御嶽山の重力モニタリング ※田中俊行・宮島力雄
P03	霧島火山・新燃岳 2011年マグマ噴火の先駆的噴火(2) ※田島靖久・小林哲夫	P18	伊豆大島における広帯域 MT 観測 ※上嶋 誠 小河 勉・小山崇夫・長谷英彰・相澤広記 宮川幸治・阿部英二・長竹宏之・前原祐樹 坂下至功・森田裕一・高倉伸一・神田 径 ポーンチャイスク ソングフン ハートコーン オリバー・小川康雄
P04	霧島火山新燃岳 2011年噴火による細粒火山灰の構成粒子記載とその変化 ※大石雅之・下司信夫 及川輝樹・西来邦章・古川竜太・中野 俊 東宮昭彦・篠原 宏志・Nicolas Vinet	P19	三宅島 2000年噴火活動初期における応力場推定の試み ※河野裕希・藤田英輔・上田英樹・棚田俊收 鶴川元雄
P05	霧島山新燃岳 2011年噴火の準備過程と推移-火山灰からの考察- 鈴木由希・長井雅史・前野 深 安田 敦・外西奈津美・金子隆之・※中田節也	P20	2011年東北地方太平洋地震で誘発された箱根火山地震活動の精密震源分布 ※行竹洋平・本多 亮 原田昌武・明田川保・伊東 博・吉田明夫
P06	新燃岳噴火に前駆する傾斜変動について (2) ※加藤幸司・藤原善明・片岡義久・小木曾仁 山里 平・藤田英輔・上田英樹・小園誠史 鶴川元雄	P21	2011年東北地方太平洋沖地震後の箱根火山における群発地震活動の特徴 ※原田昌武・明田川保 伊東 博・本多 亮・行竹洋平・板寺一洋 吉田明夫
P07	2011年霧島山新燃岳噴火前の山頂部地殻変動 ※高木朗充・福井敬一・鬼澤真也・山本哲也 加藤幸司・近澤 心・藤原健治・坂井孝行	P22	草津白根山における地磁気連続観測 ※神田 径 小山崇夫・小川康雄・山脇輝夫・寺田暁彦 Boonchaisuk Songkhun
P08	重力データから推定される霧島火山地域の地下密度構造 ※鬼澤真也・高木朗充・福井敬一	P23	草津白根山における地磁気全磁力観測—平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震後の消磁変化 山崎伸行・※福井敬一・山崎 明・豊留修一 高橋幸祐・田口陽介
P09	霧島新燃岳周辺における広帯域 MT 観測 ※小山崇夫・上嶋 誠・長谷英彰・相澤広記 山谷祐介・菅野貴之・渡邊篤志・宮川幸治・前原祐樹 橋本武志・八神 樹・神田 径・小川康雄・鍵山恒臣 宇津木充・吉村令慧・山崎健一・小松信太郎	P24	震動振幅を用いた草津白根山 2011年5月27日の傾斜変動を伴う火山性微動の震源 ※藤原善明 山里 平・小木曾仁
P10	伸縮計記録で見る 2011年新燃岳噴火活動時の地殻変動 ※山崎健一・寺石真弘・小松信太郎 加納靖之	P25	草津白根山における広帯域地震観測 ※山脇輝夫 青山 裕・寺田暁彦・野上健治
P11	長期間アレイ地震解析からみた新燃岳の噴火活動推移 ※中道治久・山中佳子・寺川寿子・堀川信一郎 奥田 隆・山崎文人	P26	ACTIVEを用いた伊豆大島三原山の電磁モニタリング ※長竹宏之・上嶋 誠・小山崇夫
P12	霧島山(新燃岳)噴火時の避難計画策定等の取組について 齋藤 誠・菅野智之・池田 滋 ※舟崎 淳・越智繁雄・上坂勇人	P27	岩手火山における短期傾斜・ひずみ変動—2009年10月～2010年6月— ※植木貞人・平原 聡 中山貴史・出町知嗣・河野俊夫・立花憲司 太田雄策・趙 大鵬
P13	桜島火山及び始良カルデラの3次元磁化構造解析 ※宇津木充・桜島電磁気構造探査グループ 神田 径・小山崇夫・井上寛之・田中良和	P28	自然電位数値シミュレーションによる樽前山の熱水系 ※長谷英彰・上嶋 誠
P14	広帯域 MT 法による阿蘇カルデラの比抵抗構造探査 ※浅野 剛・宇津木充・鍵山恒臣・井上寛之	P29	樽前山で最近観測された山頂直下の膨張と熱活動について ※山本輝明・高橋裕二・松村智之 伏谷祐二・宮村淳一
P15	阿蘇火山中岳周辺の ACTIVE 探査による浅部比抵抗の時間変化 ※徳本直明・宇津木充・鍵山恒臣 井上寛之・小森省吾・浅野 剛・小山崇夫	P30	きわめて浅い圧力源による山体変形 —樽前山の例— ※山本哲也・宮村淳一・山本輝明
P16	航空機搭載型放射伝達スペクトルスカヤナ (ARTS)		

- P31 有珠山 2000 年新山における人工地震探査
※大島弘光・青山 裕・松本 聡・清水 裕
筒井智樹
- P32 有珠山西山麓火口群周辺における地熱活動域の推移
※田村 慎・岡崎紀俊
- P33 フィリピン・タール火山で観測された低周波地震と高周波微動
※前田裕太・熊谷博之・山品匡史
Lacson Rudy・Figueroa Melquiades・Loza Allan
- P34 ストロンボリ火山で収録された空振波形の周波数解析
※後藤章夫・Ripepe Maurizio
- P35 間欠泉アナログ実験に現れた噴出周期の変動
※吉田怜史・西村太志・佐藤春夫
- P36 民生デジタルカメラを利用した簡易 SO₂ カメラの製作
※橋本武志・八神 樹・寺田暁彦・江尻 省
中村卓司・阿保 真・吉川 慎
- P37 ライダーによる火山噴気の水蒸気・水滴量のリモートセンシング
※江尻 省・中村卓司・鈴木秀彦
阿保 真・橋本武志・寺田暁彦
- P38 火山噴気温度計測用可搬型ライダー
※池羽健二
阿保 真・橋本武志・寺田明彦・江尻 省
中村卓司
- P39 防災科学技術研究所基盤的火山観測網 (V-net) データの流通および公開について
※棚田俊收
上田英樹・河野裕希・藤田英輔・小園誠史
長井雅史・小澤 拓・實淵哲也・鶴川元雄
- P40 北海道胆振海岸に分布する 17 世紀津波堆積物北海道駒ヶ岳の 1640 年噴火にともなう津波との関連性
※岡村 聡・伊藤和矢・永井 潤・西村裕一
高清水康博・嵯峨山積
- P41 北海道東部、釧路地域における樽前 d 層 (Ta-d) の発見
※長谷川健・花岡正光・重野聖之・古川竜太
七山 太・中川光弘・安藤寿男
- P42 放射年代と岩石学的特徴に基づく北海道白滝地域の火山活動史
※杉原重夫・長井雅史・金成太郎
弦巻賢介・柴田 徹
- P43 北海道安平町に分布する最終氷期ローム層の帯磁率と磁性鉱物の含有率
※金川和人・長橋孝倫
山田晴輝・古本貴仁・豊原 滯・保田牧子
- P44 大雪山御鉢平カルデラ形成に関連する火砕堆積物の古地磁気学的検討
※安田裕紀・佐藤鋭一
和田恵治・鈴木桂子
- P45 北海道クッタラ火山日和山潜在ドームの火道掘削
※後藤芳彦・佐久間澄夫・中田節也
- P46 最近 3,000 年における島海火山の爆発的噴火と熱水系の関連
※大場 司・林信太郎・南 裕介
近藤 梓・葛巻貴大・鈴木真悟・古木久美子
伴 雅雄
- P47 気象庁箱根観測井コアから見た強羅付近の後カルデラ地史
※萬年一剛・安藤 伸・伊藤順一
- P48 富士山北麓、小御岳地域の地質—その 3—先小御岳火山の地表露頭発見
※吉本充宏・中野 俊
松本哲一・藤井敏嗣
- P49 熊野酸性岩類、神ノ木流紋岩を構成する凝灰岩と溶岩
※佐藤隆春・山本俊哉
- P50 古地磁気測定・全岩化学組成分析に基づく三瓶火山第Ⅶ期噴火様式の研究
※大類 瞬・鈴木桂子
- P51 珪長質溶岩の噴出に伴う 2 種類のマグマ水蒸気爆発：九州北東部、姫島火山群の例
※石川 徹
鈴木桂子
- P52 大分県東部地域の中期更新世火山岩の K-Ar 年代
※松本哲一・星住英夫・廣田明成
- P53 島原半島南部に分布する軽石流堆積物とその起源
※長井大輔・長井雅史
- P54 阿蘇山一の宮及び白水火山観測施設の観測井岩石コア試料の K-Ar 年代
※長井雅史・池辺伸一郎
宮縁育夫・三好雅也・大倉敬宏・竹村恵二
渡辺一徳
- P55 阿蘇火山における火口径と噴出物量との関係
※阪上雅之・佐々木寿
- P56 南九州、南西諸島、黒島の火山岩の K-Ar 年代
※福田徹也・小林哲夫
- P57 諏訪之瀬島火山の火山地質に関する新知見
※嶋野岳人・下司信夫・小林哲夫
- P58 大規模火砕噴火に至る火山活動の長期変化インドネシア、スンダ弧のカルデラ火山地域における比較
※土志田潔・竹内晋吾・古川竜太・高田 亮
飯田高弘・奥澤康一
- P59 大規模火砕噴火のマグマデータベースの構築に向けて
※竹内晋吾・三浦大助・土志田潔
- P60 高分解能 SAR 画像を用いた火山地形の判読
※佐々木寿・阪上雅之・曾我智彦・村木広和
- P61 航空レーザ計測データとオルソ画像から見た、十勝岳北西麓「焼山溶岩」～二次溶岩の可能性の検討～
※藤原伸也・佐々木寿・中川光弘
- P62 地震学的解析に基づくフレンチ・ポリネシアにおけるホットスポット群の起源
※田中 聡・末次大輔
- P63 沈み込み帯での流体の移動と部分熔融：Network-MT 法データによる広域比抵抗構造イメージング
※畑 真紀・大志万直人・吉村令慧・田中良和
上嶋 誠
- P64 東北日本弧の第四紀マグマ含水量の水平変化
※宮城磯治
- P65 東北日本、月山火山新时期噴出物の岩石学的特徴の変遷 (2)
※大泉 涼・伴 雅雄・井合 穰
- P66 男体火山末期噴火のマグマ供給系の構造複数マグマ溜りの連続噴出による大規模火砕噴火
※石崎寿男
森田考美
- P67 融解実験に基づく三宅島火山大船戸期のマグマ溜まり
※潮田雅司・浜田盛久・鈴木敏弘・高橋栄一
- P68 九州中部、阿蘇カルデラ東縁部に位置する根子岳火山の岩石学的研究
※上田恭裕・長谷中利昭
森 康
- P69 阿蘇火山、Aso-4 火砕流堆積物中の弁利スコリア流堆積物の層序と斑晶鉱物の化学組成の対比研究

	※関 琢磨・荒川洋二・新村太郎・大鹿淳也		
P70	マリアナ弧火山 East Diamante と Zealandia Bank の岩石学的検討 ※布川章子・川畑 博・宿野浩司 田村芳彦・Robert J. Stern	P74	アナログ実験による柱状節理の形成過程の再現 entablature の再現を試みる ※濱田 藍・寅丸敦志
P71	巨大オフリッジ溶岩の形成過程：深海掘削 1256C 孔 ユニット 18 の岩石学 佐伯和哉・※海野 進	P75	火山噴火緊急減災対策の平常時準備事例～地域への たより～ ※廣谷志穂・荒井健一・岸本博志 小川紀一郎・今井一之
P72	火山弾のリムコア組織変化に見る、珪長質マグマ での気泡核生成、成長、合体の素過程 ※鈴木由希 小屋口剛博	P76	洞爺湖有珠山世界ジオパークの解説看板 ※宇井忠英・岡田 弘・渡邊晶子
P73	黒曜石薄層の形成メカニズム ※吉村俊平 中村美千彦	P77	「雌阿寒火山を知る」ための取り組み—雌阿寒火山 塾— ※廣瀬 亘・岡崎紀俊・石丸 聡・野中祐子 高橋浩晃・笠原 稔